

緊急情報

大豆農事メモ号外

平成30年7月19日
松任市農業協同組合

新潟地方気象台 平成30年7月12日発表

☆☆向こう1か月の天候の見通し(7月14日~8月14日) 北陸地方☆☆

- 期間の前半は、平年に比べ、曇りや雨の日が少ないでしょう。
- 期間の後半は、平年同様、晴れの日が多いでしょう。
- 平均気温は、高い確率70%
降水量は、平年並みまたは少ない確率ともに40%
日照時間は、平年並みまたは多い確率ともに40%です。

降水量が少なく、気温の高い日が続く見込みです。
大豆にも水分補給を！！

今年の大豆栽培ポイント！

2回のうね間かん水の実施で根・茎・葉ともに元気に！

1回目 すでに土壌が乾き、葉が返っている場合は、急いで実施！！

- 梅雨明け以降、降雨が少なく、土が乾いているほ場が多く見受けられます。
- 開花期前(7月下旬までに)うね間かん水を行い、生育を促しましょう。

2回目 開花期~子実肥大期(7月下旬~8月下旬) ☆最も水分を必要とする時期です。

- 開花期以降、3日以上晴天日が続いたら、土の乾き具合に応じてうね間かん水を実施！
- なお、かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。
- うね真や額縁排水溝と排水口の連結を確認し、手直しを忘れずに行いましょう。

うね間かん水の実践

土の乾き具合

葉の返り具合



葉が巻いてから
では遅い！！

干ばつによる大豆への影響は・・・？

葉の裏返りや落花・落莢(らっきょう)などが目立つ。根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分吸収力の低下が大きい。

特に大豆は吸収窒素量の5割程度を根粒により空気中の窒素を固定して利用しているが、根粒は乾燥に著しく弱く、わずかな干ばつでも窒素固定は低下してしまう。これを避ける対策として、うね間かん水は非常に重要である。

防除の徹底で品質・収量アップ

「ウコンノメイガ」の多発が懸念されます！

早期に随時防除を実施し、被害を防ぎましょう！

☆病害虫発生予察情報(石川県病害虫防除室より) ☆

ウコンノメイガ 発生量 やや多いの予想です。

生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意してください。

☆防除の目安

7月下旬に「大豆1茎当たり平均葉巻数6~8枚以上」

被害の状況

大豆ほ場への成虫(蛾)の飛来は、7月上旬頃から大豆の葉に産卵します。孵化した幼虫は、大豆の葉を巻き、内側の葉をある程度食害した後、別の葉に移動して加害を繰り返します。

なお、幼虫による葉巻は、8月上旬から増加し、9月上旬頃まで続きます。被害が大きいと減収に繋がります。



幼虫に加害された大豆の葉(葉巻)



葉巻を広げた時の幼虫

防除薬剤

薬剤名	10a 当り使用量	使用回数
プレバソンフロアブル5	100~300L 〔希釈倍数:4000倍薬量25~75ml〕	2回以内 (収穫7日前まで)
サイアノックス粉剤	4kg	2回以内 (収穫7日前まで)

- ① 圃場内で部分的に被害がある場合は部分防除も可能です。その際は、散布面積を大きめに散布して下さい。
- ② 成虫は、生育が旺盛な圃場を好んで集中的に産卵する傾向があるため、そのような圃場は幼虫の加害も多い場合があります。
- ③ 被害葉の割合が80%以上になると、くず粒の増加や小粒化によって50%程度の減収になった事例があります。